



# 学校だより 10月号

令和3年9月30日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1

TEL 045(841)6561

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

## 新たな学びのスタイルを模索して

校長 岡崎 陽子

秋の夜長、草むらからは澄んだ音色の虫の声が一斉に聞こえてくる季節となりました。日一日と秋の深まりを感じます。

1か月に及ぶ分散登校期間中の教育活動に対し、保護者の皆様・地域の皆様には、多大なるご協力を賜り、ありがとうございました。10月4日（月）から通常の全校一斉登校に戻りますが、引き続き、感染症予防対策を徹底しながら、子どもたちが安全・安心に学校生活を送ることができるよう努めてまいります。

分散登校期間中は、できるだけ学校生活の一日の流れを変えないようにして、5時間目までの授業を実施しながら、45分間の授業の半ばに手洗いタイムを設けたり、休み時間に校庭や図書室を利用できる学年を半減したりして、これまで以上に換気・手洗い・ソーシャルディスタンスを意識した対策も行いました。子どもたちの様子を見てみると、学級の半数の友達としか会えず、学校生活にも制約があるせいか、日が経つにつれて何となく元気がなくなっていくように感じました。その一方で、休み時間に友達と校庭の遊具で遊んだり、追いかっこをしたりしている姿を見ると、改めて、学校に子どもたちが集うことの意味について考えさせられました。

昨今、学校教育において「対面か、リモートか」という議論を聞くことがあります。感染の拡大は今も予断を許さない状況です。今後、起こり得る学級・学年閉鎖や臨時休校等の事態に備えて、学びを止めないための手段として「リモート」を活用していくことは重要です。しかし、「リモート」では、伝わらないことや得られないものもたくさんあります。だからこそ、私たち教職員は、子どもたちの健やかな成長を願って、一人ひとりの子どもたちとの関わりを大切に、コロナ禍においても「対面」による学びを工夫していきたいと強く思います。

分散登校期間中は、各学年の発達の段階や授業内容に応じてタブレット端末（以下、端末）を使用する機会をつくりました。学校での学習の日、例えば国語科では、教材文を読んで自分の感想を端末に書き込み、それを教師の端末に送信します。子どもたちは端末の画面を共有して、お互いの感想を交流しました。家庭での学習の日には、教師があらかじめ子どもたちの端末に課題を送信しておき、終わったら教師の端末に返信して提出するということにも取り組みました。今後も、どのように端末を使っていくことがより有効なのかを検証しながら、新たな学びのスタイルを模索していきたいと思っております。

一人一台の端末については、当初の横浜市教育委員会の方針では、主に学校での授業の中で活用することを想定していました。しかし、感染状況の急激な悪化により、家庭での利用も可能となり、9月1日（水）に急遽、お子様をご家庭に持ち帰った次第です。

学校教育における新たな学びのスタイルの実践については、ご期待と共に、ご心配やご不安を感じておられる保護者の方もいらっしゃると思います。本校では、それらに伴う課題を一つ一つ解決しながら、子どもたちが楽しみながら、安心して学習に取り組めるようにしたいと考えています。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。